

平成二十四年度京都府内遺跡発掘調査成果速報

第二十八回

小さな展覧会

企画展示 関白・夢のあとゝ秀吉の京々



主催 公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター・向日市文化資料館

後援 京都府教育委員会

展覧会開催にあたって

「小さな展覧会」は、毎年、前年度に京都府内で行われた発掘調査の成果を出土遺物や写真などによって紹介し、府民をはじめ多くの方々に埋蔵文化財への理解を深めていただくことを目的として開催しています。

平成 24 年度に当調査研究センターが実施した発掘調査の中で最も注目されるのは京都市上京区の聚楽第跡の調査で、本丸南堀の石垣が良好な状態で見つかりました。調査終了後、石垣は現地で埋め戻され、保存されています。今回は、聚楽第跡やその他の注目される遺跡を取り上げ、京都府内の各関係機関の発掘調査成果と合わせて速報展示します。

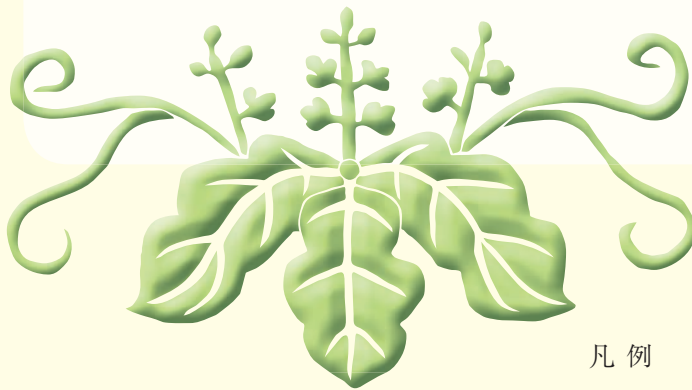
また、今回は「関白・夢のあと～秀吉の京～」と題して、聚楽第跡や周辺の大名屋敷から出土した金箔瓦や桃山文化を代表する陶磁器などを写真パネルとともに展示して、京都に残る豊臣秀吉の足跡をご紹介します。展示にあたっては、よりわかりやすく、親しみやすいものとなるよう心がけました。

今回の展覧会に共催をいただいた向日市文化資料館をはじめ、ご後援をいただいた京都府教育委員会、様々なご協力を賜った各関係機関に対し、深く感謝いたします。

平成 25 年 8 月

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

理事長 上 田 正 昭



凡 例

1. 本書は、「第 28 回小さな展覧会～平成 24 年度京都府内遺跡発掘調査成果速報～」(平成 25 年 8 月 17 日～9 月 1 日に開催)の展示図録です。
2. 展示資料は、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターおよび各機関が主として平成 24 年度に発掘調査および整理作業を行った遺跡・遺物を対象としました。
3. 展覧会期間中の 8 月 24 日(土)に第 125 回埋蔵文化財セミナーを開催します。
4. 資料調査・図録作成・展示・資料および写真借用にあたっては次の機関からご協力をいただきました。
(順不同・敬称略) 宮内庁書陵部・京都府教育委員会・京都府京都文化博物館・京都府立山城郷土資料館・舞鶴市教育委員会・福知山市教育委員会・京丹波町教育委員会・亀岡市教育委員会・京都市文化市民局・財団法人京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館・向日市教育委員会・向日市文化資料館・公益財団法人向日市埋蔵文化財センター・長岡京市教育委員会・公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター・大山崎町教育委員会・宇治市歴史まちづくり推進課・城陽市教育委員会・井手町教育委員会・木津川市教育委員会・堺市博物館・公益財団法人三井記念美術館
5. 本図録は、京都府立山城郷土資料館の協力を得て作成しました。

(表紙写真：聚楽第跡本丸南堀石垣、旧二条城跡出土金箔瓦)

速報展示：弥生時代の遺跡

【太田遺跡第 18 次】 おおた 亀岡市蔦田野町太田

亀岡市教育委員会調査

太田遺跡は、昭和 57 年度の調査成果から、弥生時代前期末～中期初頭（約 2,200 年前）にかけての環濠集落で、ムラを囲う環濠が 2 重ないし 3 重に巡っていることが分かっていました。

内容確認のために亀岡市教育委員会が平成 22 年度から 3 年にわたり実施してきた調査成果により、集落の規模は東西約 180 m、南北約 130 m に及ぶことが判明しました。

今回の調査では、溝、川跡、土坑、柱穴などが見つかり、たくさんの弥生土器が出土しました。



集落内で見つかった溝



集落内の溝の一部



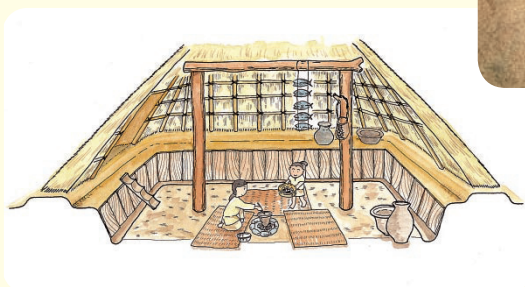
出土した弥生土器

【美濃山廃寺下層遺跡】 みのやまはいじかそう 八幡市美濃山古寺ほか

平成 23 年度当調査研究センター調査

美濃山廃寺下層遺跡は、美濃山廃寺の下層で見つかった弥生時代の集落遺跡です。

調査では、弥生時代後期の堅穴建物 たてあなたもの が 6 基見つかりました。堅穴建物は住居跡と考えられます。建物の平面形には円形と隅丸方形の 2 種類が見られます。建物の規模は、それぞれ直径約 10 m、一辺約 8 m と大きなものです。



堅穴建物内の想像復原図



見つかった隅丸方形の堅穴建物

古墳時代の遺跡

【由里古墳群】 ゆり 与謝郡与謝野町字弓木小字由里

当調査研究センター調査

中世の石田城跡の下層で、古墳時代前期から中期ごろと考えられる2基の古墳が見つかりました。いずれも墳丘は削り取られており、詳しい形状や規模は不明ですが、埋葬施設が残っていました。1号墳では、幅2.3m、長さ3.3mの墓壇ぼこうに石棺が納められていました。石棺は板石を組み合わせたもので、床面には礫が敷き詰められていました。石棺には2体の人骨が埋葬されており、石棺や人骨の一部には赤色顔料が認められました。棺外に鉄斧やヤリガンナが副葬されていました。



由里1号墳埋葬施設全景

【蒲生野古墳群】 こもの 船井郡京丹波町蒲生蒲生野

京丹波町教育委員会調査

弥生時代中期の方形周溝墓と古墳時代前期の古墳が見つかりました。古墳の墳丘は失われていましたが、全長6.5mの長大な木棺を納めた墓壇いしくしろ へきぎよく かつせきを確認しました。棺内には鏡や石釧(碧玉や滑石製の腕輪)、多数のガラス玉が副葬されていました。特に滑石製の石釧は全国的にも類例が少ない優品です。

方形周溝墓は一辺約10mで、京丹波町内では初めての検出例です。埋葬施設には小型の木棺が納められていました。棺内からは碧玉製管玉のほか、当時は稀少であったガラス玉が出土しました。ガラス玉の副葬例としては府内では最古の例です。



出土した鏡と石釧

蒲生野古墳の埋葬施設

【茶臼塚古墳】 ちやうすつか

綴喜郡井手町多賀茶臼塚 / 城陽市市辺茶うす山

井手町・城陽市教育委員会調査

墳丘は後世に削られています、6世紀終わり頃に造られた直径20mの円墳と推定されます。埋葬施設は大型の石材を使用した横穴式石室げんしつです。玄室の石材はほとんどが抜き取られており、羨道せんどうの一番下の石材のみが残っていました。玄室の床面には礫が敷き詰められていました。石室の規模は全長12mと推定され、南山城地域で最大級のものです。この古墳に葬られた人は、有力な豪族と考えられます。石室からたくさんの須恵器が出土しました。



茶臼塚古墳石室全景 (羨道から)

【キツネ山古墳群】 福知山市大江町高津江小字狐山

福知山市教育委員会調査

6世紀後半から7世紀初頭にかけて造営された4基の古墳からなる古墳群で、横穴式石室を埋葬施設にもちます。最も規模の大きい1号墳は直径約15mの円墳で、玄室は幅約2m、長さ4.3mです。玄室の奥壁前面には長さ1.1mの範囲に礫が敷かれており、その上面で鉄鍬や刀子などの鉄製品と多量の玉類が出土しました。また、玄室内には箱形石棺も設置されていました。

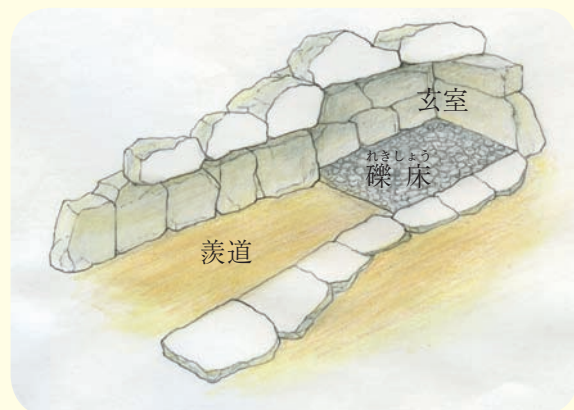
石室の規模や副葬品の豊富さから、この地域の有力者のお墓と考えられます。



キツネ山1号墳石室全景



石室内で見つかった箱形石棺



横穴式石室の模式図



玉類出土状況



ひすい めのう
翡翠や瑠璃・碧玉・水晶などの玉類が350点近く見つかりました

【白味才西古墳】 乙訓郡大山崎町字大山崎小字白味才

大山崎町教育委員会調査

古墳は周溝の一部を残して墳丘の大半が削り取られていましたが、一辺10m前後の方墳と想定されます。埋葬施設は横穴式石室で、全長5.7mを測り、床面には礫が敷かれていました。石室の床面から出土した土器の年代から7世紀中頃に造られたと考えられます。また、石室の埋土からは8世紀中頃、9・10世紀の土器が出土しており、古墳はその時期に削平もしくは2次利用されたと考えられます。



白味才西古墳の全景

女谷・荒坂横穴群は、これまでの発掘調査で60基の横穴が見つかっていましたが、平成24年度の発掘調査で、新たに21基の横穴が見つかりました。新たに見つかった横穴はおもに7世紀に造られたもので、奈良時代に再利用された横穴もありました。

横穴は、古墳時代後期に造られた墓の一つで、墳丘を持たず、丘陵の斜面を洞窟^{どうくつ}のように掘って造られます。オープンカットした墓道と死者を埋葬するための玄室（墓室）からなり、横穴式石室とよく似た形をしています。

昨年度調査した横穴は互いに近接して造られています。そのため、隣の横穴を壊さないように入り口の高さを変えるなどの工夫がされています。



丘陵の斜面に姿を現した横穴群



石棺出土状況（墓道から）

死者を埋葬した玄室では、たくさんの土器が見つかりました。死者との別れに際して行われた何らかの儀式で食物などを盛ったと考えられます。

横穴の玄室内からは多くの鉄釘が出土しました。これらは、板を組み合わせて作った木棺に用いられていた釘で、木の板が腐ってなくなり、釘だけが残ったと考えられます。横穴の1つには板石を10枚組み合わせて造られた石棺が納められていました。石棺は幅1m、全長1.3mと小型で、棺の中からは人骨が見つかりました。

横穴の多くでたくさんの人骨が見つかりました。見つかった人骨の多くは、新たな死者を埋葬する際に、脇に寄せられたと考えられ、多くの人骨が重なった状態で見つかりました。



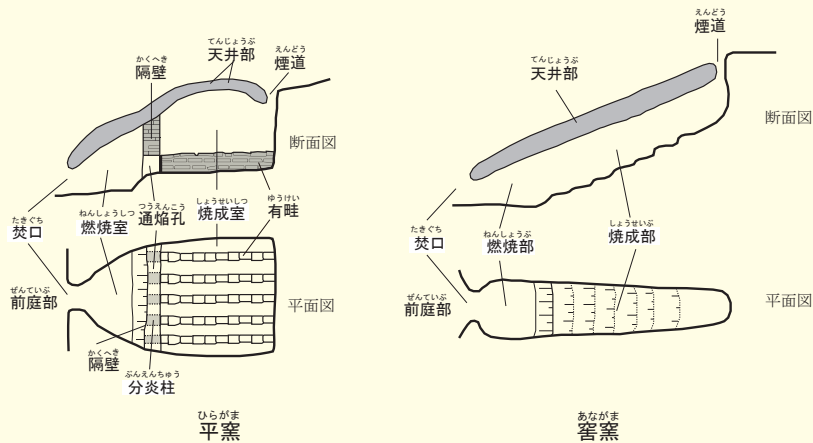
玄室の中で出土したたくさんの土器

奈良～平安時代の遺跡

みのやまがようあと
【美濃山瓦窯跡群】 八幡市美濃山古寺

当調査研究センター調査

美濃山丘陵上に位置する8世紀初頭から9世紀の瓦窯跡群で、5基の瓦窯が見つかりました。1・3号窯は^{あながま}窖窯で、2・4・5号窯は平窯です。1号窯は最も古い窯で、同じ丘陵上にある美濃山廃寺の創建期の瓦を焼いていました。2号窯は全長12mで、平窯が2回造り替えられていました。5号窯は焼成室と燃焼室がよく残っていました。4号窯から「西寺」の文字が押印された瓦が出土しました。同じ文字瓦が平安京西寺跡で出土しており、美濃山瓦窯跡群の性格を考える上で注目されます。



2号窯全景（平窯 8世紀後半）



3号窯（窖窯 8世紀初頭）



4号窯（平窯 9世紀）



5号窯全景（平窯 9世紀）



4号窯で出土した「西寺」の文字が押印された瓦

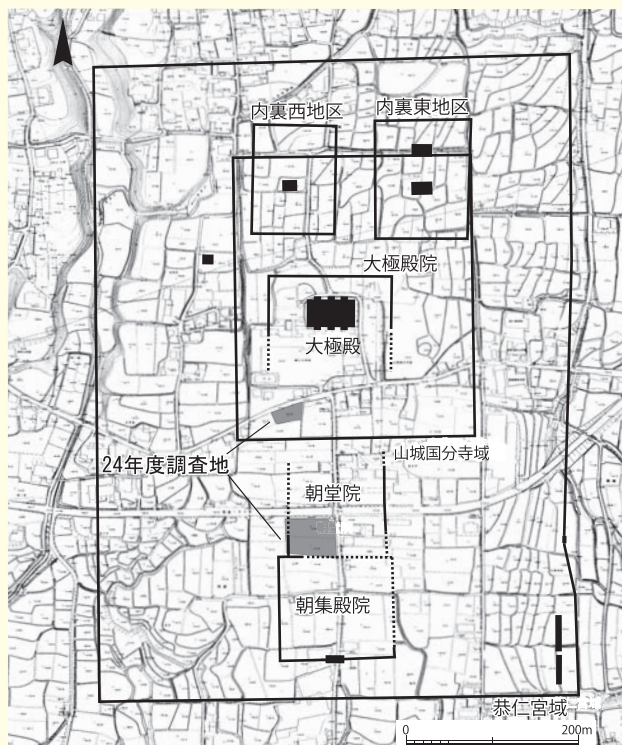
くにきゅう
【史跡恭仁宮跡】 木津川市加茂町例幣

京都府教育委員会調査

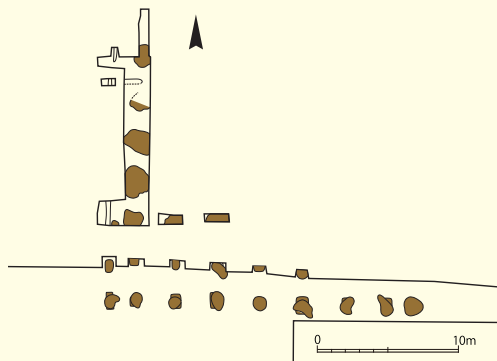
だいごくでん ちょうどういん
大極殿院と朝堂院の境界の位置と、朝堂院の建物を確認するための調査を実施しました。朝堂院地区の調査では、朝堂と考えられる掘立柱建物が初めて見つかりました。建物は、最大で東西8間（70尺）、南北6間（60尺）の規模で、一部に瓦が用いられていたと考えられます。また、建物は朝堂院の南西隅部に計画的に配置されており、朝堂院の内部構造を解明する上で重大な発見となりました。



朝堂院地区で見つかった建物の柱穴
(上：写真、右：平面図)



調査地位置図



ながおかきょうあとうきょう
【長岡京跡右京第1034次】 長岡京市長岡二丁目

公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター調査

調査地は、長岡京右京五条三坊三町にあたります。発掘調査では長岡京の時期の掘立柱建物跡、宅地を区画する溝や通路が見つかりました。遺構の変遷から当時の宅地利用の様子が明らかになりました。



宅地内の通路



調査地全景

【史跡および名勝^{あらしやま}嵐山】

京都市右京区天龍寺芒ノ馬場町

財団法人京都市埋蔵文化財研究所調査

調査地は嵯峨天皇の皇后 橘 嘉智子ゆかりの壇林寺^{だんりんじ}推定地の近くに位置しています。溝や土坑から「大井寺」銘の軒平瓦など平安時代の瓦が大量に出土しました。これらの中には大山崎町の大山崎瓦窯で焼かれた瓦もあります。確認された遺構は、壇林寺またはこれまで不明であった「大井寺」に関連すると考えられ、両寺の解明に貴重な資料が得られました。



「大井寺」の文字が見えます



調査地全景

【植物園北遺跡^{しょくぶつえんきた}】 京都市左京区下鴨半木町

当調査研究センター調査

主に奈良時代から平安時代にかけての竪穴建物や掘立柱建物群が見つかりました。建物群は、建物の方位や出土した土器により大きく2時期に分けられます。新しい時期には竪穴建物がなくなり、掘立柱建物だけで構成されます。この時期には三面に廂が付く大型掘立柱建物があり、有力者の居住域であった可能性があります。

平安京遷都（794年）前後の京域外の集落の変遷や構造を知る貴重な成果といえます。



調査地全景



見つかった大型の三面廂付建物



出土した奈良時代から平安時代の土器

中世以降の遺跡

まつどの 【松殿跡】 宇治市木幡南山

宇治市歴史まちづくり推進課調査

松殿跡は平安時代後期の関白藤原基房^{ふじわらもとふさ}の邸宅跡とされる遺跡です。丘陵平坦面を囲う高まりを調査したところ、幅 1.2 m、高さ 1.2 m の土塁であることが分かりました。当時の貴族の邸宅は築地塀^{つじべい}で囲まれるのが一般的であり、遺跡の性格を考える上で重要な成果といえます。



邸宅を囲む土塁跡

じょうるりじていえん 【特別名勝・史跡浄瑠璃寺庭園】 木津川市加茂町西小札場

木津川市教育委員会調査

現在の浄瑠璃寺庭園は江戸時代に大きく整備されたものです。調査では池の南岸で平安時代から鎌倉時代の石組遺構が、東岸で同じ時期の州浜が見つかりました。平成 23 年度の調査に引き続き、創建当初の庭園の姿が明らかになってきました。



庭園東岸で見つかった州浜

やましなほんがんじ 【山科本願寺跡】 京都市山科区西野山階町

財団法人京都市埋蔵文化財研究所調査

室町時代の石風呂遺構や炊事施設が見つかりました。石風呂・カマド・三和土^{たたく}・井戸からなる石風呂遺構は半地下式の構造で、南北約 6 m・東西 3 m 以上です。炊事施設からは炭化した米や焼けた壁土が出土しました。調査地一帯が寺の生活空間であることが明らかになりました。



石風呂遺構：手前が作業場を兼ねた前室、奥が蒸し風呂

きづがわかしょう 【木津川河床遺跡】 八幡市八幡

当調査研究センター調査

木津川河床遺跡では、木津川が現在の河道に改修される以前の様子が発掘調査によって徐々に明らかになりつつあります。

今回の調査では、水制や護岸など近代淀川の治水の歴史が明らかになりました。



水制と護岸が交互に連なっています

企画展示：関白・夢のあと～秀吉の京～

1. 天下人への道―乙訓と秀吉―

天正 10（1582）年 6 月 2 日、京都の本能寺において、織田信長が明智光秀の謀反により自害しました（本能寺の変）。中国地方で毛利氏と戦っていた秀吉は、事件を知るとすぐさま京都へ向かい、6 月 13 日に山崎の戦いにおいて光秀を倒しました。これにより秀吉は信長の後継者として頭角を現します。天正 11（1583）年、秀吉と柴田勝家は賤ヶ岳の戦いで激突し、ついに秀吉が勝利して織田信長の後継者となります。

乙訓地域は、秀吉が関白となってからは京都所司代である前田玄以が治め、西国街道を整備したほか、「向日町」の礎を築きました。



長岡京跡右京第 1019 次調査で見つかった山崎の戦いの舞台となった安土・桃山時代の堀（公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター提供）



豊臣秀吉画像（堺市博物館所蔵）

2. 天下人の栄華―聚楽第一―

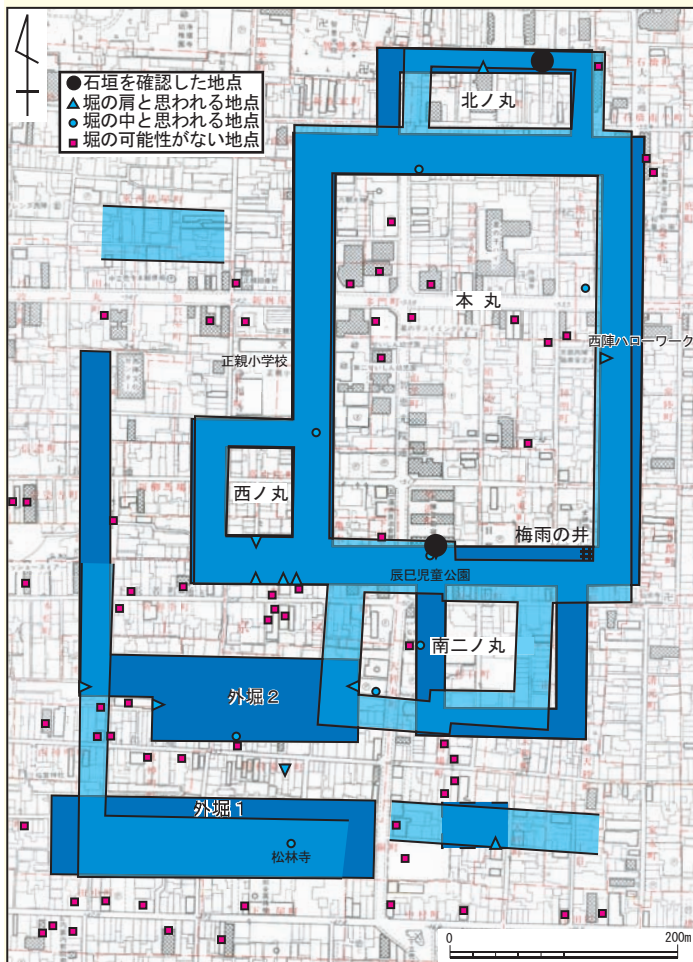
聚楽第は、関白となった秀吉が、天正 14（1586）年に京都での政庁・居城として平安宮の大内裏の跡地に築造しました。建物の屋根瓦だけでなく、内部の調度品にも金箔を使用した豪華絢爛な桃山文化を代表する城郭で、朝鮮の使節を受け入れるなど、外交の場にも使用されました。天正 16（1588）年には後陽成天皇を迎え、天皇の前で諸大名に豊臣家への忠誠を誓わせました。

天正 19（1591）年、秀吉は関白職と共に聚楽第も甥の秀次に譲りますが、秀次を謀反の疑いで自害させたときに聚楽第を徹底的に破壊したと記録されています。そのため『聚楽第図屏風』などにその姿をとどめるのみで、幻の城となっていました。

平成 4 年、聚楽第跡で初めて大規模な発掘調査が実施され、本丸東堀が見つかりました。堀内には大量の金箔瓦が廃棄されており、このときに出土した金箔瓦は重要文化財に指定されています。平成 24 年度の発掘調査では、初めて本丸の石垣が良好な状態で見つかりました。400 年以上の時を越えて、現代の私たちの目の前に姿を現したのです。



重要文化財：京都府聚楽第跡出土金箔瓦



聚楽第復原図（■は馬瀬智光氏案、■は森島康雄氏案）



見つかった本丸南堀の石垣

聚楽第の規模や構造等については、これまでの調査成果や絵図等をもとに複数の復原案が出されています。石垣については、これまで北ノ丸北堀でしか見つかっていませんでした。

発掘調査で見つかった本丸の石垣は、東西 32 m 分で、残りの良いところで高さ 1.5 m（4 段分）になります。石垣は、55 度の角度で積み、裏込めには栗石が詰められていました。石材は花崗岩を中心とする自然石で、石仏などを転用したものはありませんでした。また、東にいくほど大型の石を使っています。絵図等から今回の調査地の東側に門などがあったと考えられ、本丸へ入城する人々に対し威信を誇示したと考えられます。石垣は発掘調査終了後、現地で埋め戻され、地中に保存されています。



『聚楽第図屏風』部分（公益財団法人三井記念美術館所蔵）
屏風に描かれた聚楽第の建物の屋根は金色に縁取られています



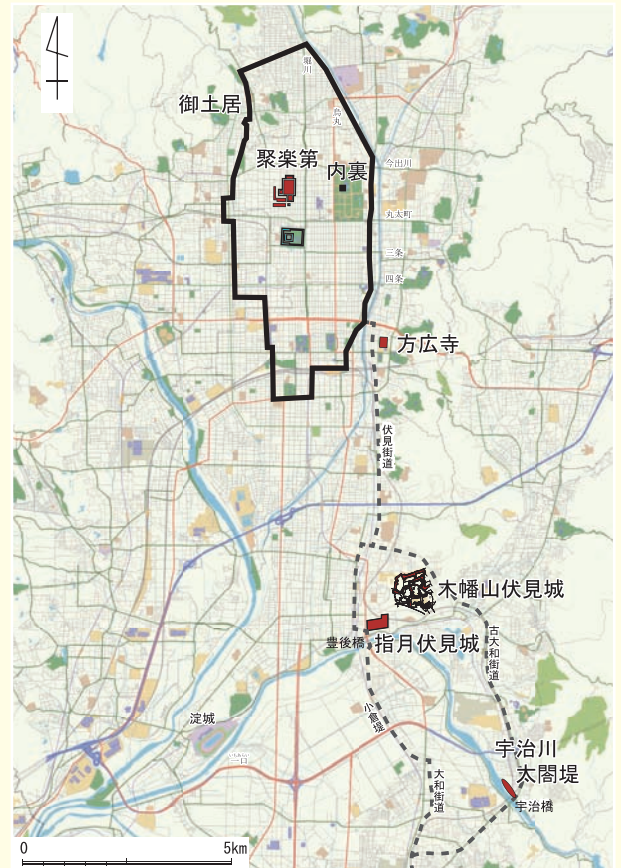
身長 180cm

横から見た本丸南堀の石垣

3. 秀吉の町造りー御土居・大名屋敷ー

秀吉は、聚楽第の築城を皮切りに京都の町を大きく変えていきます。まず、「京中屋敷替え」を実施し、聚楽第の東方に大名屋敷地区を設けました。内裏と聚楽第を結ぶメインストリートであった現在の中立売通一帯の発掘調査では、多くの地点で金箔瓦が出土しています。これらの金箔瓦には織田家や前田家、佐竹家、浅野家などの大名の家紋瓦があり、一帯に大名屋敷があったことが明らかになりました。

聚楽第築城と同じ頃、蓮華王院（三十三間堂）の北側に巨大な大仏殿をもつ方広寺を造営します。発掘調査では大仏殿基壇の化粧石や大仏の台座、大仏殿南門・回廊跡・南面石塁などが見つっています。また、内裏を修築して周辺に公家屋敷を集め公家町を設けたり、「寺町」や「寺ノ内」を設定して洛中に散在していた寺院・神社を集めたほか、天正 18（1590）年には「天正地割」により南北方向の通りの真ん中に新たに「突抜^{つきぬけ}」を設けて南北道路を通し、これまで空閑地であったところを「町」にしました。さらに天正 19（1591）年、御土居^{おどい}を建設して京都の町を囲い込み、洛中と洛外とを視覚的に分けます。このように、聚楽第を中心とした天下人秀吉の都が創造され、その景観は現在の京都の町の骨格となっています。



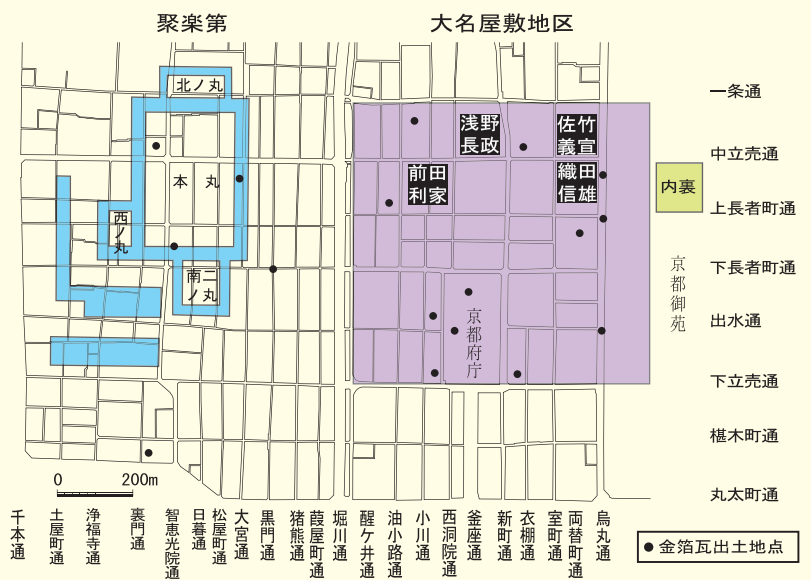
聚楽第と伏見城（森島康雄氏作図）



平成 24 年度に調査された御土居跡と堀
（財団法人京都市埋蔵文化財研究所提供）



発掘調査で見つかった方広寺の石塁
（財団法人京都市埋蔵文化財研究所提供）



聚楽第と大名屋敷地区：京中屋敷替え以後（森島康雄氏作図）

大名屋敷地区出土の金箔瓦



木瓜文軒丸瓦・桐文軒平瓦
(上京区龍前町・花立町)



揚羽蝶文飾り瓦
(上京区龍前町・花立町)



源氏車文飾り瓦
(上京区龍前町・花立町)



桐文軒丸瓦
(旧二条城跡)



裏葵文軒丸瓦
(上京区下小川町)



梅鉢文軒丸瓦
(上京区下小川町)



日ノ丸扇文軒平瓦
(上京区龍前町)



桐文飾り瓦
(上京区藪ノ内町)

4. 秀吉最期の地―伏見城とその城下町―

関白職を甥の秀次に譲った秀吉は、伏見の南端の丘陵部（指月^{しげつ}）に天守を備えた城と城下町を造営しました。ほぼ完成した文禄5（1596）年に大地震が起こり、伏見城は天守が大破する大きな被害を受けました。この城は指月伏見城と呼ばれています。地震直後に、秀吉は北側の木幡山^{こはたやま}に新たな伏見城を建設します。この城は木幡山伏見城と呼ばれ、惣構え^{そうがまえ}の中に大規模な城下町が造られました。聚楽第破却後、聚楽第東方に建ち並んでいた大名屋敷は伏見城下に移ります。そして、慶長3（1598）年、秀吉はここで最期を迎えます。

また、秀吉は、文禄3（1594）年に伏見城下を水陸交通の拠点にするために、淀川・宇治川に堤防を築きました。これが太閤堤で、平成19年に発掘調査でその一部が発見され、当時の治水技術が明らかになりました。現在国史跡に指定され、史跡公園として整備中です。



史跡宇治川太閤堤跡（宇治市歴史まちづくり推進課提供）



伏見城通称「増田右衛門尉郭」南東石垣（京都府教育委員会提供）

伏見城下的大名屋敷跡の発掘調査でも、聚楽第周辺と同様に金箔瓦や桃山時代を代表する陶磁器類が出土しています。

舞鶴市田辺城跡では、丹後を治めていた細川氏が築城した当時の遺構が見つかり、建築部材の削り屑や木製品が出土しました。



田辺城跡：細川期の遺構（舞鶴市教育委員会提供）

5. 聚楽第その後—豪商の町—

聚楽第が打ち壊され、大名屋敷が伏見城城下町へ移転した跡地には、茶屋四郎次郎や松屋三郎ちややしろうじろう まつやさぶろう右衛門えもんなどの豪商が屋敷を構えました。屋敷跡の発掘調査では、国産陶磁器のほか中国・朝鮮・東南アジアなどからもたらされた陶磁器が見つっています。

秀吉は、晩年に2度の朝鮮出兵を行いました。その時に日本に連れてこられた朝鮮の陶工たちによって、九州各地で唐津焼からつなどの陶器が作られるようになりました。それに続いて、九州有田地域では、日本で最初の磁器（伊万里）が焼かれるようになりました。磁器の文様は、中国製青花磁器の影響を受けています。その他、瀬戸・美濃地域で、志野しのや織部おりべと呼ばれる陶器が作られました。京都でも、楽焼らくやきなどの茶の湯に使われる陶器が作られるようになりました。このように、当時の文化や中国・朝鮮などの東アジアの陶磁器に影響されて、現代にまで続く日本の焼物文化の基礎が築かれました。



朝鮮王朝白磁碗（上京区藪ノ内町）



瀬戸天目碗（旧二条城跡）



華南三彩盤（上京区龍前町・花立町）



華南三彩男子像（上京区勘兵衛町）



黒織部碗（上京区龍前町・花立町）

展示遺跡位置図



第28回小さな展覧会 会期：平成25年8月17日～9月1日

編集・発行 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40-3 TEL.075-933-3877 Fax.075-922-1189

ホームページアドレス <http://www.kyotofu-maibun.or.jp> 印刷 三星商事印刷株式会社



発行：2013.8.17